

## 第58回景況調査<2008年6月調査>

### ●世界経済減速の影響じわじわと

9月12日に内閣が発表した2008年四-六月期のGDP改定値は、実質で前期比0.7%減、年率3.0%減と一年ぶりのマイナス成長となりました。また、年率3%の減少は01年七-九月期以来、約7年ぶりのマイナス幅です。

GDPを押し下げている直接的な要因は、設備投資や輸出の減少、個人消費の低迷ですが、その背後には「世界経済の減速や原材料高、米国の金融市場の不安定さが実体経済に影響している」(与謝野経済財政相、日経夕刊9月12日付)ことはいうまでもありません。輸出に依存して「景気回復」してきた日本経済に、世界経済減速の影響がじわじわと現れてきています。

また、関西経済の景気は、特に設備投資と輸出が引っ張ってきたといわれていますので、当面の減速は避けられないと考えられています(朝日新聞、9月13日)。景気への厳しい見方に加えて物価上昇が進んでいることから消費者の心理も冷え込み、近畿では七月まで4ヶ月連続で百貨店売上が前年割れをしています。

### ●最近の中国視察から

私は、9月7日から12日まで上海の自動車関連企業調査を行いました。短期間でしたが、北京オリンピック後の中国経済が一つの節目に来ていることがわかりました。

その一つが、アメリカ経済の減速から対米輸出に影響が出ていることです。もう一つが、中国の株価の低迷です。上海株式市場では今年初めから株価の低下が進み、株価低下が消費と企業収益に影響を与えています。2008年の自動車販売台数も当初1050万台と予想されていましたが、最近では970万台に下方修正されたようです。そのため、ある部品メーカーでは週休三日体制で操業しているラインも見られました。

もちろん、中国全体が現在大きく減速しているわけでは必ずしもありませんし、過度に反応する必要はないと思います。但し、今後しばらくは中国経済の動向に注意する必要があるといえそうです。

### ●中小企業は利益圧縮の危機～中同協

中同協の景況調査報告(DOR)では、他の調査よりいち早く、中小企業をめぐる環境の厳しさについて指摘してきました。最近の調査(2008年四~六月期)では、「中小企業はすでに不況に陥っているのであって、この点は売上高、とりわけ経常利益の圧縮危機となって現れている」としています。

つまり、ここ一年で景況への評価が最も悪くなっていることに加え、原材料高の高騰に対して「価格交渉力の弱い中小企業がモロに影響を受けている姿がうかがえる」と中小企業の状況を記しています。不況が深刻化するなかで、売上減少、原燃料価格の高騰が中小企

業に深刻な利益圧縮をもたらしていること、今後はこうした環境に対して中小企業は事業モデルの転換を図っていかねばならないと指摘しています。

#### ●大阪の中小企業も収益悪化～大阪市信用金庫の景況調査から

大阪市信用金庫が実施している府下中小企業に対する景況調査でも販売数量が減少を続けていることが示されています。販売数量が減少していることに加え販売価格も低下していることが結果として収益状況に影響し、収益状況の悪化が最も深刻であると指摘しています。

また、景気に関する見方では、「やや悪化」(49.5%)、「かなり悪化」(19.0%)と七割近くの経営者が景気の悪化を感じています。業種的には、運輸・通信業が最も高く出ていました(77.5%)。

#### ●大阪同友会の景況調査から

大阪同友会の四-六月期の景況調査(回答数75)では、他の調査と異なり、前回の景況調査よりも数値は改善しています。もともと前年同期比の業況判断は、前回▲40が今回▲26、売上高が▲24から▲11と依然として厳しい状況が続いています。また、経常利益については▲26から▲29へと悪化しています。

大阪同友会企業の調査で業況判断の悪化が顕著に見られなかったのは、環境が改善したわけではありません。仕入単価のD I値は、前年同期比、今後の見通しのいずれも前回より悪化しており、原材料・燃料価格の影響が厳しくなっていることがわかります。一方、前回と比べて業況判断、売上高、経常利益が好転した企業の割合が増えていますが、それは新規受注の確保や顧客の増加に努力してきた結果だと思われます。但し、売上・客単価の上昇を実現している企業の割合は変化しておらず、仕入単価を売上・客単価に反映することはまだ難しいようです。

資金繰りについて前回と変化しているのは、長期金利のD I値が上昇していること、つまり金利が上昇したという回答が低下したという回答を大きく上回っていることです(▲5→11)。この数字だけで確定的なことはいえませんが、前述した大阪市信用金庫のデータからも借入難の増加が示されており、金利や金融機関のこれからの動向については注意が必要なようです。

#### ●「2008ビジョン」を生かした経営を

以上見てきたように、景況は明らかに悪化し、中小企業をめぐる環境は厳しくなっています。原材料・燃料をはじめとする価格上昇と景気悪化が同時に進行していることを考えると、環境は2000年頃の景気後退期よりも厳しいともいえます。

大阪同友会は、九月に「2008ビジョン」を発表し、時代の変化に対応する企業づく

りを提案しています。ビジョンでは、現在は大きな時代の転換期であり、転換期を正確に捉え、先進的に時代の変化に対応していくことの重要性を訴えています。最近の世界経済、日本経済の状況は、単なる景気の波によるのではなく、時代の大きな流れの中で生じていることです。したがって、企業の方向性も短期的な対応だけでなく、事業モデル自体を転換していくことが求められています。そのため、ビジョンではこれまでの「自立的で質の高い企業づくり」に加えて、特に新たな価値を生み出す「創造」を強調しています。ビジョンで提起された企業づくりの実践こそが、現在の環境に積極的に対応していくために必要な課題ではないでしょうか。

### 【1】業況、売上、採算

	2007年10～12月 に比べて(前期比)				2007年1～3月 に比べて(前年同期比)				2008年4～6月 の見通し (2007年4-6月に比べ)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
実数	7	18	32	-	7	20	30	-	9	21	26	-
%	12	32	56	▲ 44	12	35	53	▲ 40	16	38	46	▲ 30
売上高	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
%	13	40	47	▲ 35	19	39	42	▲ 24	15	44	41	▲ 26
経常利益	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
%	10	35	56	▲ 46	11	32	57	▲ 26	12	40	48	▲ 37

経常利益	2008年1月～3月(当期)				業況水準	2008年1月～3月(当期)			
	黒字	トントン	赤字	DI値		良い	そこそこ	悪い	DI値
実数	22	13	15	-	実数	11	9	36	-
%	44	26	30	14	%	20	16	64	▲45

## 【2】経常利益の好転理由・悪化理由

経常利益の好転理由(前年同期比)		経常利益の悪化理由(前年同期比)	
売上数量・客数の増加	67	売上数量・客数の減少	63
売上単価・客単価の上昇	50	売上単価・客単価の低下	38
人件費の低下	0	人件費の上昇	6
原材料費・商品仕入額低下	0	原材料費・商品仕入額上昇	66
外注費の減少	0	外注費の増加	6
金利負担の低下	0	金利負担の増加	6
本業以外の部門の収益好転	0	本業以外の部門の収益悪化	0
その他	17	その他	6

(複数回答)%

## 【3】資金繰りの状況等

資金繰り	2008年1月～3月(当期)				借入金	2007年1月～3月に比べて (前年同期比)			
	余裕有り	トントン	窮屈	DI値		増加	横ばい	減少	DI値
(%)	32	23	45	▲13	(%)	36	26	38	▲3
借入金利	2007年4月～6月に比べて				借難度				
	上昇	横ばい	低下	DI値	困難	不変	容易	DI値	
長期(%)	10	74	15	▲5	長期(%)	14	53	33	▲19
短期(%)	19	72	8	11	短期(%)	13	65	23	▲10

#### 【4】経営上の力点

3位まで選択 (%)

付加価値の増大	46
新規受注の確保	67
社員教育	36
財務体質の強化	18
人件費削減	6
人件費を除く経費減	22
機械化促進	4
情報力強化	11
人材確保	27
新規事業の展開	16
得意分野の絞込み	7
研究開発	13
機構改革	6
その他	6

#### 【5】経営上の問題点

3位まで選択 (%)

同業者間の価格競争の激化	42
仕入単価の上昇	53
販売先からの値下げ要請	16
民間需要の停滞	44
大企業の進出	7
新規参入者の増加	4
官公需要の停滞	4
取引先の減少	12
人件費の増加	9
管理費等間接経費の増加	9
金利負担の増加	0
事業資金の借入難	5
従業員の不足	11
熟練技術者の確保難	14
下請業者の確保難	4
輸出困難	2
輸入品による圧迫	9
税負担の増加	0
仕入先からの値上げ要請	21

#### 【6】価格の動き

	2007年1月～3月に比べて (前年同期比)				2008年4月～6月の見通し (2007年4月～6月に比べ)				
	(%)	上昇	横ばい	下降	DI値	上昇	横ばい	下降	DI値
仕入単価		79	17	3	76	77	18	5	72
売上・客単価		31	50	19	12	30	46	23	7